



平成30年
亀山市成人式

再会。そして新たな旅立ち

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今年、成人式を迎えたのは、平成9年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた人で、447人が晴れて新成人となりました。

亀山市では、1月7日に市文化会館で成人式を開催しました。笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝い、そして大人への新たな一歩を踏み出しました。

新成人のことは

※新成人を代表して発表された「新成人のことは」を紹介します。



原田大輔さん
(辺法寺町)

に復帰することができました。

その後、高校3年生になって進路について深く考えるようになり、昔からの目標であった野球選手を目指すために大学へ進学するのか？それともあきらめて就職するのか？で悩むことがありました。そんな時、両親からこんな言葉をいただきました。「長い人生の中で、企業で働いて一人前の大人になれ」と。私は思い悩んだ末、就職の道を選び、一人前の大人になることを決意しました。

私は、目標である野球選手になるために、高校生まで必死に練習に打ち込んできました。しかし、高校2年生の時に、過度な練習による疲労骨折で野球ができない時期がありました。今まで味わったことの無い思いから、野球を辞めようと考えました。そんな時に、先生や両親から励ましの言葉をいただいたことで、リハビリを粘り強く頑張ることができ、無事、野球

今思うと、野球を通して、多くの仲間とめぐりあえたこと、必死に一つのことに打ち込める強さを身に付けられたことなど、多くのことを学ぶことができました。本当に野球を続けてきて良かったと実感しています。

私は、高校を卒業して就職し、昨年の6月に結婚しました。でも、そんな矢先の10月に父親が亡くなりました。寡黙な父親で、文句も言わずに働き、私や姉を育ててくれました。そんな父へ今日、今までの感謝の気持ちと私自身の決意とともに、手紙を送りたいと思います。

～天国にいる父へ～

私は、奥さんと生まれてくるお腹にいる子どもと共にこれから歩んでいきます。父さんみたいに働き、子どもを成人させて立派な大人になります。私たちのためにお金を貯めていて、それが自分の治療費に消えて「ごめん」と謝ってくれていたことを後で知りました。いつもは見せない姿の中に、私たちへの愛情が込められていたことを知り、父親の背中の大ささを感じました。今まで、本当にありがとうございました。これからは、天国で私たちのことを見守ってください。よろしくお願いします。



北崎里佳さん
(加太北在家)

み時間は、友達とこの森を走り回っていました。7人という少ない同級生でしたが、先生や地域の人たちの愛情に囲まれ、のびのびと成長できました。

中学生になると、遠距離通学は、朝寝坊の私には試練でした。ですが、眠い朝、おなかがすいた放課後、コンクールで金賞をとりたいと吹奏楽部のみんなと練習に励んだ日々が懐かしく思い出されます。私は、多くの人たちと信

私たちが生まれたのは1997年。この年のヒット商品の一つにハイブリット車がありました。地球温暖化の議論が活発になり、このハイブリットという視点は大きく社会の注目を浴びました。

社会がCO2削減だと騒がしくなるなか、私は自然豊かな加太で生まれ育ちました。小学生の頃を振り返ると、加太小学校には、校舎の前にみんなの森があります。休

頼関係を紡ぎながら、成長することができました。

今は、京都の大学に在学しています。社会の課題の一つ、女性が社会で活躍し、なおかつ結婚し子どもを育てていく困難さを痛感しながらも、それでも社会の役割を担える大人になりたいと、日々、勉学に励んでいます。

今の時代は、さまざまな価値観が認められ、生き方の選択も増えました。私たちが生まれた時にヒットしたハイブリット車は、今は、岐路に立たされています。自動運転、EV車など、自動車産業界は、百年に一度の大きな変革の時だと言われています。自動車産業界だけでなく、産業全体の在り方が活発に議論されています。少子高齢化、労働力の減少は幾度となく、皆さんも耳にされたことでしょう。変革には、痛みや時代のうねりが伴いますが、それでも社会は未来に向かっていきます。

そのようななか、私は、変化し続ける社会に足がすくみそうになりますが、自分にできること、小さな努力を積み重ね続けること、あきらめず自分の夢に向かって挑み続けていきたいと思います。



廣田堅也さん
(能褒野町)

しかし、高校2年生の時に怪我をして、試合に出ることができなくなり、ベンチをあたためることしかできませんでした。それでも、強豪チームと善戦していた時の雰囲気は、選手、控え選手、マネージャーの隔たりなく、今までに感じたことのない一体感でした。試合には負けましたが、負ける悔しさの半面、仲間の応援の在り方や裏方で働いているマネージャーとの一体感から、「ただ試合に出て、試合に勝つことがすべて

私はサッカーが大好きで、高校生まで一生懸命に仲間たちと練習をしながら過ごしてきました。その時の私は、サッカー選手を目指していたこともあり、サッカーの楽しさというのは、「チームとしてどのように試合に勝っていくか」、つまり、ただ勝ちにこだわるからこそが一番大切だと考えていました。

ではない]ことを知った瞬間でした。同時に、裏方として盛り上げることも大切な役目だと知りました。そして、スポーツの楽しさは、人をサポートすることにもあるのではないかと考えるようになり、将来はスポーツに関わる仕事に就きたいと考えるきっかけになりました。

その経験から、現在、専門学校のスポーツ科に進み、「体を動かす楽しさ・大切さを幅広い世代に伝えていくこと」や「スポーツを通じて、仲間と関わる楽しさ」を学んでいます。

私は、これから企業に就職し、サッカーの楽しさを多くの子どもたちに伝えていきたいと思っています。それは、ただ「勝つ」という観点のみならず、「スポーツを楽しむ」という観点も含めて教えていきたいです。

私は、4月から社会人になります。持ち前の明るさと誰とでも仲良くなれる特性を生かし、これからの将来を担う子どもたちに対して、私自身が何をすることができるのだろうかを常に考え、実行していきたいと思っています。そして、夢へと向かって一歩ずつ前へ進んでいきます。